

第1回新庁舎整備検討分科会

<開催概要>

日時：令和7年8月1日（金） 14:00 開会

場所：熊本市役所 4階モニター室

参加者：（委員・臨時委員）田中委員（分科会長）、菅野委員、星野委員、吉城委員、住吉委員、壇委員、八幡委員、松里委員、道脇委員、西山委員

<資料>

- ・第1回分科会次第
- ・分科会委員名簿
- ・配席図
- ・資料1_分科会の役割
- ・資料2_市民意見聴取の状況
- ・資料3_基本計画段階での整理事項
- ・資料4_基本計画骨子（案）
- ・資料5_各機能の方向性
- ・資料6_コンセプト検討の方向性
- ・参考資料1_庁舎周辺まちづくりプラン（仮称）等検討委員会運営要綱
- ・参考資料2_新庁舎整備基本計画検討分科会運営要綱
- ・参考資料3_新庁舎における議会棟のあり方について
- ・参考資料4_受託者提案書
- ・参考資料5_駐車場・駐輪場機能の考え方について

<会議の経過>

1. 開会

2. 臨時委員の委嘱状の交付

3. 委員の紹介

4. 田中分科会長挨拶

親会である庁舎周辺まちづくりプラン（仮称）等検討委員会の岸井委員長から指名を受け、本分科会の委員長を務めさせていただく。

私は建築設計の専門だが、基本計画が一番大事と言われている。基本構想では、3つの目指すべき姿が謳われている。1つ目は、あらゆる災害に対応できる庁舎。2つ目が、市民が利用しやすく質の高い行政サービスが提供できる庁舎。3つ目が、まちのにぎわい貢献し、まちづくりの核となる庁舎。この目指すべき姿を、具体的な建築の設計、施設の設計につなげていくのが基本計画であり、極めて大事なものであり、本分科会でしっかりと検討を重ねて、すばらしい基本計画になるようご協力をいただきたい。

また、この分科会とは別に設置されている「まちなか再生・賑わい波及検討分科会」「現庁舎跡地（周辺）利活用検討分科会」と連携しながら、まちの賑わい、そして、将来的な土地利用も含めたまちの姿を視野に

入れて検討を進めなければならない。非常に難しいミッションの分科会であり、皆様からお知恵をいただきながら、様々な視点で検討できればと思う。

最後に、できれば、分科会はざっくりとした雰囲気の中で、いろいろな意見を交わしながら進められればと考えている。どうぞよろしく願います。

5. 報告事項1) 分科会の役割

(事務局)

1 ページ目に、分科会の設置について記載している。4月に開催した「庁舎周辺まちづくりプラン（仮称）等検討委員会」第一回検討委員会において、新庁舎基本計画に関する分科会、まちなか再生・賑わい波及の検討に関する分科会、跡地の利活用検討に関する分科会を設置することとなった。

2 ページ目に、分科会での審議範囲を示しているが、新庁舎の整備に関することに加え、周辺交通、近隣施設との連携等について、ご審議いただく予定である。

なお、新庁舎周辺の回遊性向上に関する内容など、他の分科会に関連する事項については、内容によって、「庁舎周辺まちづくりプラン（仮称）等検討委員会」や他の分科会と連携を図って進めていくことを想定している。また、議会機能における議員控室や議場、執務環境における執務室のレイアウトや会議室、書庫等の規模などについては、別途検討を進めており、分科会には検討結果について報告させていただく予定である。

3 ページに、今後の分科会での審議事項を示している。

(松里委員)

議会については別途報告ということだが、議会棟を災害時にどのように利用するかについても報告して頂きたい。熊本地震の際には議会は活用されなかったが、市内に災害時の避難施設が少ない状況なども踏まえて議会に検討をお願いしたい。

(事務局)

議会と協議し、報告を行いたい。

(田中会長)

昨日の水害で鎌倉市議会が市民に開放されて市民の方が避難されていた。そういう利用も含めて検討をお願いしたい。

6. 報告事項2) 市民意見聴取の状況

(事務局)

基本計画策定に向けた市民意見の聴取のため、これまでに、オープンハウス、アンケート、ワークショップを実施している。

オープンハウスを5月から6月にかけて花畑広場やアーケードなどで計8回実施し、延べ1,396人にご参加いただいた。「新庁舎に期待するポイント」について自由にコメントをいただいたところ、特に『市民利用スペース』についての要望が多く、子どもが遊べる場所や図書、自習、情報発信など多様なニーズが明らかになった。

無作為抽出による2,000名を対象にしたアンケートを実施しており、742名から回答があった。「(4) 新庁舎の方向性」について、重要と答えた方の高い順に掲載しており、利便性、防災性、ユニバーサルデザインが特に重要視されている。

また、「(5) 市民利用スペースに求める機能」について、重要と答えた方の高い順に掲載しており、金融機関 ATM、情報発信機能、展望スペース、市民活動利用などが重要視されている。「(6) 本庁舎移転後の来庁

手段」については、約8割が「変わらない」と回答し、変わる場合の交通手段については、「バス」の割合が最も高くなっている。「(7) 自由記述」については、422件のご意見やアイデアが寄せられ、「市民利用スペース」に関するご意見が最も多く、次いで「窓口・手続」、「施設規模・事業費」の順となった。

ワークショップでは、参加者を市政日よりやSNS等を通じて広く募集し、38人の応募があった。同じメンバーで全3回実施し、現在第2回まで実施済である。第1回は、「まちの将来像」について議論いただき、その実現に向けて「新庁舎周辺の役割」について議論いただいた。まちの将来像については、熊本城や自然を活かした熊本らしさが詰まったまち、人が中心の回遊したくなるまちなどの意見があり、新庁舎周辺の役割については、いつでも多様な人が集える、まちに足りない機能を補完、安全安心を守る防災拠点などのご意見があった。

第2回は、新庁舎の利用者像を想定し、新庁舎を利用する場面と理想的な過ごし方を想像しながら、必要な空間と機能について議論いただき、楽しく快適に過ごせる庁舎となるために、サクラマチクマモトと接続したほうがいい、休憩や情報発信スペース、展望スペースがあったら良いなどのご意見があった。

第3回については、明後日8月3日に開催し、「新庁舎の未来を思い描く」をテーマに新庁舎の市民利用スペースについてご議論いただく予定である。

市民意見聴取の状況については、市政日よりや市ホームページ・SNSなどを活用し、広く情報提供を行うとともに、今後、いただいた意見をもとに、新庁舎のコンセプトや各機能の整備方針、特に市民利用スペースに導入する機能や規模等の検討を進めていく予定である。

(星野委員)

アンケートなどで多くの意見を収集できて素晴らしいと思う。また、ワークショップは良い雰囲気が進められており、多様な意見が出ているが、意見を「量」で整理すると埋もれてしまうものもある。ワークショップ参加者といい関係ができていたので、ワークショップで頂いた意見がどのように計画に反映されたかをワークショップ参加者などへフィードバックすることについても考えてもらいたい。

(事務局)

アンケート等ではたくさんの意見をいただいております、特にワークショップでは市側では思いつかないような、参考になる意見が出ている。本日は用意できなかったが、各回の詳細を報告する資料をまとめており、ホームページ等で公開する予定である。資料が揃い次第本分科会へ報告させていただく。また、ワークショップ参加者へフィードバックする機会についても検討したい。

(松里委員)

アンケートでは災害に強い防災拠点を求める意見が多く挙がっている。一方で、「防災拠点」に対する捉え方は、市役所と市民とでは感覚が異なると思われる。ワークショップに参加すると、市民は災害時に避難をする場所として認識していることを感じた。

また、新庁舎へのアクセス、駐車場に対する意見も多い。サクラマチに近くなるのでバスも便利になると思うが、建替え後も交通手段が変わらないと答えている人達に対して、どのように変化を促していくか。意見が多いから対応するというのではなく、より良いものを作っていくためにはどのようにすべきかという視点を持ってアンケート結果を扱うべきと考える。

(道脇委員)

桜町・花畑地区での帰宅困難者の対応についての協議会に参加しているが、近隣住民としては、何かがあったとき、避難所である学校がいっぱいになっていた場合に、新庁舎に避難できるかをとても気にしている。

(事務局)

本庁舎はまず、災害時に司令塔となって各区役所や各避難所等に指示を行う拠点になるため、防災拠点と

しての機能充実を図ることは最優先として考えている。現状、現本庁舎は一時避難所としての機能は指定されていない。ただ、通勤・通学者が多くなるなどより公共性の高い場所に建設する本庁舎として、一時避難の在り方も含めて桜町・花畑周辺地区エリア防災計画の中で本庁舎をどのように位置づけるべきか検討していく。防災面については、次々回の分科会で事務局の考えをお示ししたい。

また、駐車場について、アンケート結果のように交通手段があまり変わらない、という意見は意外であった。アンケート時点では、建設予定地は示しているが、バスターミナルとの連携などについて具体的に示すことができなかつたため、今後バスターミナル等との連携を図って利便性を高める対策などを示し、なるべく公共交通へシフトするように考えていく。

(八幡委員)

アンケートは、市庁舎周辺の市民だけでなく、熊本市全域の市民に新庁舎への関心を持ってもらうべき事業である。特に、これから熊本市を担う若い世代にどのように関わってもらうかについて考えを聞かせて欲しい。

(事務局)

5月から6月にかけてオープンハウスを花畑広場中心に実施したが、今後は各区でも実施を検討したい。また、基本計画の素案がまとまった段階で各区にて市民説明会を行い、パブリックコメント同様、意見を聴取し計画に反映したいと考えている。

(田中会長)

できれば若者にも関心を持ってもらいたい。

(事務局)

今までのアナウンスは、市政だよりや市のホームページが中心だったが、なかなか若い世代に見てもらえる機会が少なく感じている。例えば動画配信サービスやSNS等を使いながら、若い市民の意見も聴取する仕組みを検討している。本分科会でも媒体について意見をいただきたい。

(八幡委員)

学校では、市役所のプロジェクトと連携して総合的な学習が行われている。そのような機会を経て、若い人達を関わっていただけたらと思う。

(事務局)

ワークショップでも高校生や大学生に参加していただき、大人に混じってたくさんの意見を出してもらい、ワークショップ自体も活性化した。若い方は、興味を持っていただければ、良い意見を出していただけるので、より関心を持ってもらえるように努めていきたい。

(西山委員)

市民の皆さんの想いや知見を深めるために第3回のワークショップを見学させて頂きたい。市民委員としてSNS発信なども協力していきたい。

(事務局)

もちろん、見学していただきたい。

(松里委員)

これまで開催したワークショップに2回参加してきたが、すごく楽しい会になっている。良い庁舎を作ろうという思いを持った方々が集まっており、そういう思いが出やすい環境になっている。公表資料には記載されていないが良いキーワードもたくさん出ている。「軒先」というキーワードが第1回で高校生から上がっていたが、雨をよけられる、現庁舎でダンスの練習を行っているのと同じように、新庁舎の屋根の下でダンスが映るガラス張りの空間が欲しいというものであった。遅い時間でもそういう風に安全に遊べる場所が必要

なんじゃないかという話になった。若い人達の声は小さいかもしれないが、とても良い意見がある。新庁舎を考えるヒントになると思われることから、是非拾い上げて欲しい。

(道協委員)

高校生でもしっかりした意見を持っている子が多いのに驚くところ、大事にしてほしい。

7. 審議事項1) 基本計画骨子

(事務局)

資料3の1ページに、基本計画段階での整理事項を示している。基本計画段階では、整備方針や配置計画、求められる性能や必要面積等の整理を行うことになる。建物の具体的な図面化は、基本計画の次の段階である基本設計で行うことになる。

2ページに、横浜市の事例を示しているが、基本計画は、方針や設計と条件、配置のゾーニングなどを整理するものであり、詳細な図面化は、基本設計段階になる。

資料4の2ページに、現時点での基本計画の目次案を示している。本市の基本計画については、他都市などを参考に構成を想定しており、「はじめに」と「第一章」で、これまでの整理を踏まえた内容を記載する予定である。骨子についても資料3の3ページから9ページにかけて、現時点である程度記載しているが、内容については、素案段階に改めて整理を行う予定である。

第2章以降には、分科会でご審議いただいた内容を踏まえ、整理を進めていく予定だが、今回は、基本計画に記載する内容や項目について、追加すべきものがないかなどについて、ご意見等をいただきたい。

第2章に、コンセプトについて記載しているが、今回、審議事項3で、検討の進め方についてご審議いただく予定。

第3章は、敷地条件や動線計画を記載する予定で、景観形成への配慮、周辺施設との連携、建物配置、動線計画等についても整理する予定。

第4章に、本庁機能や議会機能、中央区役所機能、市民利用スペース機能、駐車場・駐輪場機能について記載する予定。

第5章は「求められる性能や水準」、第6章は「新庁舎の規模」「施設のイメージ図」、第7章は「概算事業費や事業スケジュール」、第8章は回遊性向上に資する施設や周辺交通環境の検討など、関連事業について記載する予定。

今回は、基本計画に記載する内容や項目について、追加すべきものがないかなどについて、ご意見等をいただきたい。

(吉城委員)

他都市の基本計画事例を参考にしたとのことだが、他都市の事例から新たに追加された項目や、逆に他都市にはあるが熊本市では採用しなかった項目があればご教示いただきたい。

(事務局)

現在策定を進めている基本計画は主に仙台市などを参考にしているが、熊本市の特徴は本庁舎と中央区役所の2か所がまとめられた基本計画となることである。本庁舎と中央区役所の連携や役割分担を基本計画の中で整理を行う点が他都市と異なるが、基本的な構成は他都市の基本計画をベースにしている。

(星野委員)

本庁舎と中央区役所が分棟となる点はこの基本計画のポイントであるが、骨子案2ページの目次の中で、本庁舎と中央区役所の機能分担や連携などは、どの章に入ってくるのか。

(事務局)

第3章（骨子案12ページ）で、本庁舎と中央区役所の敷地条件や動線計画を整理するが、近隣との連携についてもここで整理を行い記載していく。

（田中会長）

本庁舎と中央区役所の機能分担、連携の考え方は2章のコンセプトでしっかり語ったほうがよい。これらは大きなコンセプトに関わってくるから2章に盛り込んだ方がいい。

（事務局）

2つの庁舎を同時に建設するという観点で、今回の基本計画は他都市にないものなる。それぞれの庁舎の役割分担を決めておけば基本設計以降のフェーズを進めやすくなるので、その方向でまとめていきたい。

（松里委員）

本庁舎と中央区役所で求められる性能・水準は共通する内容だと思う。本庁舎と中央区役所での大きな違いは何と考えられるか。

（事務局）

中央区役所は市民手続きの場所であり、地域住民により近い存在になる。本庁舎は主に事業者が来る場所として想定され、防災面でも中央区役所と役割が異なってくるので、そのあたりも含めてコンセプトを設定する必要がある。

（松里委員）

市民利用が区役所ならば、区役所を利便性の高いNTT跡地に、という意見は必ず出てくる。中央区役所を花畑別館跡地に建設するのであれば、しっかりとした答え、コンセプトが必要である。中央区役所をより使いやすくし、それから回遊性を担保するために中央区役所が存在するというコンセプトを打ち出すと市民に対して説得力が増すのではないか。

（田中会長）

その視点も含めて、2章で本庁舎と中央区役所の配置の考え方が謳われるべきだろう。それが、本庁舎と中央区役所の役割分担と連携につながっていく。

（吉城委員）

今回のコンセプトはまち全体と、建築の両方を書き込むようなイメージなのか、それともまちのところまではあまり言及しないコンセプトになるのか。コンセプトの範囲をどのように設定しているのかご教示いただきたい。

（事務局）

コンセプトを決めるにあたっての方向性は資料6（コンセプト検討の方向性）で後ほど事務局から説明する。まち全体のコンセプトは「現庁舎跡地（周辺）利活用検討分科会」と「まちなか再生・賑わい波及検討分科会」で考えていくことになるため、まちのコンセプトと新庁舎のコンセプトとの齟齬が無いように、それぞれが連携を図りながら大きなまちのコンセプトをまとめていきたい。

（田中会長）

大きなまちのコンセプトを視野に入れながらここで議論をしてもよいと思う。この場のミッションは新庁舎であるので、基本的にはそれを基本計画に謳うという姿勢がいいだろう。

（菅野委員）

「市民利用スペース」とあるが、市民が使ってもいい場所、市民はお客さん、というイメージで記載されているように感じた。市民はともに政策を実現していく主体の存在であるという話を入れる必要があり、市民と一緒に政策を実行していく姿勢を表現できる目次立てになるように考慮してほしい。

（田中会長）

コンセプトによって、目次の構成や表現の仕方は変わってくる。現時点で、章立てや場所の名称は仮である。今後のコンセプトによってこの構成は変わっていくという認識である。

(事務局)

今回お示しする骨子は構成案であり、今回の分科会でのご意見を踏まえて整理させていきたい。

(田中会長)

今後のコンセプトの議論次第で、構成が変わることはこの場で共有しておきたい。

(八幡委員)

熊本市は熊本県の中核都市であり、本庁舎機能として果たすべき役割を検討していく上では、連携中核都市圏構想周辺都市との連携についても重要な視点となる。周辺都市からのアクセス性についてもどこかで明記すべきではないか。

(事務局)

どのように本庁舎機能に盛り込んでいくのか検討を進めていく。

(松里委員)

市民利用という言葉の中には、市民だけでなく、地域住民や来街者など、さまざまな人々による利用という広い意味が込められている。その多様な意味合いをより広く、魅力的に伝えられるとよい。

(田中会長)

いずれにせよ、コンセプトをどのように位置づけるかにかかってくる。

8. 審議事項2) 各機能の方向性

(事務局)

資料5の1ページに、第一回でご審議いただく事項、2ページに新庁舎の建設地である桜町・花畑地区の特性、3ページと4ページに本庁舎・議会機能、中央区役所機能の検討の方向性、今後検討を進める事項について記載している。

昨年度、プロポーザルにおいて様々な提案等を受けた上で、設計事務所の選定を行っているため、その提案をたたき台に機能等の検討を進めていきたい。なお、建物の外観イメージは、あくまでも提案時のイメージになり、建物の規模やデザインも含め、どのような施設とするかは今後整理する予定である。

本庁舎・議会機能の建設地は、来庁者の利便性向上に加え、賑わい創出や回遊性向上に寄与する機能の設置について検討を行っていくという方向性を示している。検討事項として記載している事項は、実施について決定しているものではない。特に、熊本桜町ビルや辛島駐車場との接続、連携については、相手方との協議や、法的又は施工上の検討も必要になるため、現時点で接続するかも含め未定である。

中央区役所については、坪井川沿いの長堀通りにも近接し、多くの観光客や来訪者が行き交うエリアに位置することから、商店街への回遊性向上に寄与する機能の設置についても検討を行っていくという方向性を示している。

5ページに、災害対応の機能について示しており、市の関連計画を踏まえた上で、「あらゆる災害に対応でき、各フェーズでの非常時優先業務や、応援職員の災害応急活動が適切に実施でき、エリア防災にも寄与する防災拠点施設」として整備を目指す方向性を記載している。様々な災害リスクの想定や対応、災害対策本部でのリエゾン受入れの想定や、各フェーズでの業務や受援を具体的に想定して必要な機能等について検討を進めていく予定である。

7ページに、駐車台数の設定と配置計画に関する考え方を示している。駐車場は、中心市街地での交通政策や社会動向を踏まえて台数を設定することとし、すべての台数を本庁舎と中央区役所に整備するのではなく、

辛島地下駐車場等の周辺駐車場の活用を検討する。駐輪場については、庁舎利用者を対象とした台数の駐輪場を、敷地内で整備することを基本とする。

8 ページに、市民利用スペースの検討の方向性を示している。ワークショップやアンケート等で市民意見を聴取したうえで、民間活力の導入や想定される事業スキームについて検討を行っていく。基本計画段階では、屋上や屋外、低層部などの、どの位置に市民利用スペースを設け、どのような機能を想定するのか、事業スキームとして想定されるものが何かの整理を行う予定である。具体的な機能や用途、事業スキームについては、設計の進捗に合わせて決定していく。

(田中会長)

本庁舎と区役所の役割について、「参考」と記載されているが、どういう意味か。

(事務局)

現状市庁舎の機能分担、地域防災計画に記載されている役割を記載している。今後は、こちらを前提に審議を進めて頂きたいということで、参考として記載している。

(田中会長)

今日は、これを決めるということではないということか。

(事務局)

当然、この内容が前提となっていくが、新庁舎として、もっとこういう機能を持たせた方がいいのではという意見があれば、それは防災計画を見直すというになっていく。

(田中会長)

機能の方向性があるが、第1回で方向性は決められない。今日は、機能の検討の方向性だと考えてよいか。

(事務局)

その認識である。

(田中会長)

2 ページ目、3 ページ目について意見の意見を求めたい。

(松里委員)

本庁舎と中央区が分かれた時に、本庁舎では何ができなくて中央区役所で何ができるのか、身近な市民サービスとは何か。本庁舎に市民サービスがないことに違和感がある。本庁舎に身近な市民サービスが無いとなると、利便性が低いということになるのでは。

(事務局)

他の区役所は、中央区役所と異なり単独のため、当然区役所としてのサービスは完結されている。中央区役所も今後は同じような形で区役所としてのサービスが完結できるようにしたい。また、1つのサービス手続きが完結できるよう組織の配置も検討していきたい。

その上で、本庁舎には、例えば住宅を建てる際に窓口に来られる来庁者もいるが、そのような人たちの利便性は高めなければならない。

(松里委員)

来庁舎の利便性という言葉が正確に市民は理解していないのでは。本庁舎では何ができなくて中央区役所で何ができるのかという点の理解が進まない中で利便性という話をして、市役所と我々の考えがイコールにならない。コンビニでできる最小限の手続きは本庁舎でもできるということは、あって然るべき。区役所と本庁舎のサービスを明確としながらも、どこでもできるサービスもあると思う。そもそも来庁者をどう想定しているのかが、あまり見えていない。

(事務局)

来庁者の調査をしており、区役所は 1000 名程度、残り 1000 名弱が本庁舎に来ている。属性は、一般市民は区役所、本庁舎は事業者が中心。今後の検討分科会で本庁舎、区役所の役割を整理し、それぞれの庁舎で何ができるかを明確化した上でご意見をいただきたい。

(八幡委員)

市役所改革のDXの検討で、区役所の一つの窓口で完結するようなサービスや、自宅にしながら窓口手続きができるようなサービスの話が挙がっている。そうすると、窓口に来られるのは高齢者などDX対応が苦手な方になるのではないかと。市ではDXのコンセプトマップのようなものを作成していると思われるので、それを示してもらおうと市が目指しているものが共有できる。

(事務局)

執務環境などは別に整理を進めている。窓口については、執務環境の整理の一環として庁内で検討している段階である。窓口一本化についても整理を進めており、ある程度まとまった段階で示していきたい。

(田中会長)

今回は検討の方向性を語る場である。執務環境や窓口も含め、全体として、まずは本庁舎・議会、中央区役所の庁舎像をどうあるべきかを整理すべきだ。その上で回遊性や賑わいの機能が付加されていく構図であるべきである。

(菅野委員)

基本構想で掲げられた目指すべき姿として「まちづくりの核」に関するものが現在の骨子にはない。市役所はまちづくりの核であるべき。まずはその方向性が掲げられるべき。利便性や災害に強いという点は良いが、まちづくりとは行政だけでやるものではない。どのような市、地域にしたいかが最初に語られるべき。

(松里委員)

何を置いたらまちづくりの核となるのか。

(田中会長)

何を置くのかなのか。どういう庁舎像となるとまちづくりの核となるのか。

(菅野委員)

どんな人がどういう風に過ごして何をするのかを整理しなくては、機能の話にならない。

(田中会長)

ますますコンセプトに関係する。

(事務局)

第3回のワークショップで市民の方から意見をいただきながら、書きぶりは考えたい。そのあたりが欠けている部分かと思う。

(星野委員)

すごく狭く言うならば、パブリックスペースあるいは市民利用スペースを大きく設置すれば核になるという認識があるのではないかと。問題意識としては、そこに何が生まれるのかという所まで踏み込まなくては。スペースを準備しますだけではいけない。

(田中会長)

それは交通や駐車場の考え方にも関係する。まちの賑わいに貢献するという話は、総合的な話である。ただし、今回は検討の方向性の確認になるため、話を進めてみたい。災害対応の方向性について意見を頂きたい。

(松里委員)

どんな視点が熊本ならではの災害拠点だと考えるか。

(事務局)

過去に熊本地震を経験しており、その経験を生かした災害対策拠点を作ることだと考えており、それを対外的に見せていくことも大事だと考えている。

(田中会長)

熊本地震の経験は、「ならでは」の中に込められていると思われるが、それは具体的に基本計画に記載した方がよい。

(菅野委員)

熊本地震の時からも災害対応は変わってきている。社会状況の変化に対応すべき視点や先を見据えた視点を記載するべきである。

(松里委員)

市役所は危機管理の最前線でもある。自然災害以外も記載があるが、大きなスペースとして、トリアージの場所やリエゾンスペースへの対応も必要である。可変性などの部分について、もう少し膨らまして記載すべきである。

(田中会長)

様々な活動の対応に寄与する余白の話になる。

(松里委員)

災害対応は、余裕がないとできない。現時点で人が足りない、予算が足りないという状況で、災害時にそれ以上のことができるかというできない。日常的に余裕のあるスペースを作っておいて、災害時にはリエゾンの待機場所や市職員が休む場所などで使う。平常時はどのように使うかも含めて、ゆとりのある庁舎設計をすべき。難しいとは思いますが、災害時にはそのようなスペースが必要だから、日常的にこう使うということであれば理解される話だと思う。

(田中会長)

柔軟性と冗長性ということ。次に、6、7ページの駐車場の検討の方向性について意見を頂きたい。

(道脇委員)

サクラマチの近くに住んでいるので、駐車場は気にしている。資料に書いてあるのは現在の駐車台数。新庁舎の駐車台数はどうなるのか。辛島地下駐車場やサクラマチの駐車場なども考えるのか。

(事務局)

新庁舎の敷地の中にも必要な駐車場は作るが、周辺駐車場の活用も検討したい。台数はこれから交通への影響を検討しながら設定することになる。

(西山委員)

荷捌き駐車場の台数にあたっては、荷捌きの路上駐車対策を検討したうえで設定してもらいたい。まちなかの飲食店などは道路に搬入車が停留して歩行者の安全性が脅かされている。そのような状況にならないよう検討してもらいたい。

(事務局)

熊本市は、「まちなか駐車場適正化計画」を策定し、まちなかの駐車場をどのように配置したらよいかを整理しているが、そもそもあまり街中に車を入れるべきではないという考え方も認識している。荷捌きの考え方も示されているため、今後、そのような考え方も踏まえた上で、新庁舎の荷捌き駐車場についても整理していきたい。

(田中会長)

西山委員は、庁舎だけでなく、まちなかの荷捌きのことを言われているのか。

(西山委員)

まちなかの荷捌きの場所がないため、路地に停めている状況がある。

(松里委員)

跡地利用の中で考えると面白いかもしれない。

(田中会長)

庁舎だけ考えるのではなく、庁舎の荷捌きを使える、トータルで考えるべきだということか。

(事務局)

「まちなか駐車場適正化計画」には、まちなかの集合荷捌きについての考え方も示されている。場所をどうするのかは今後議論が必要になる。

(星野委員)

交通は、新しいものを造ることで周りへのインパクトをどう抑えるかという議論になるが、少しは周りの交通も良くするような考え方はできないか。まちなか駐車場適正化計画など計画を立てても、なかなか実行されないことが多い。率先してそういう計画を実践していくモデルとして考える方法もある。

(吉城委員)

このインパクトの大きな事業に合わせて、熊本中心部のいろいろな交通課題を一気に改善する機会であり、前向きに取り組んでもらいたい。そこは親会の議論になるかもしれないが、動ける範囲で是非検討をお願いしたい。

(事務局)

この場で議論が違うということではないが、問題の抽出をして、具体的な議論は親会や部会の検討に諮ることも考えられる。

(道脇委員)

新庁舎の駐車場の台数は、今から検討して設定していくということによいか。

(事務局)

そういうことになる。

(松里委員)

平時の駐車場台数の考えとは別に、災害時や非常時の視点も大事。駐車場としてスペースとして確保する必要は無いにしても、動線をどうするのかのデザインは必要。その辺りはコンセプトとして加えておきたい。

(吉城委員)

駐車場の方向性として、全てを新庁舎に整備せず、周辺駐車場を活用していくということだが、「まちなか駐車場適正化計画」によると、ピーク時の14時の平日でも桜町・通町筋の駐車場稼働率67.8%と随分余裕がある。今後のDXの推進によって来庁者が減っていくという流れがあるだろう。庁舎で全てを賄うという考えではなく、減らしていく方向が重要。また、一点尋ねるのだが、DXを活用することで、将来の来庁者が減るというような予測を立てられているのか。

(事務局)

DXの取り組みも始めたばかりで、まだ将来の予測まではできていないと承知している。職員の執務面積についても、在宅勤務によって少なくできるのではないといった見方もあるが、やみくもに将来を想定して面積を縮小し、実際に狭くなったということは避けたい。今考えているのは、現状でできる技術の中で、どのくらいの面積が必要か整理して、その上で、なるべくスペースに可変性を持たせようということを目指している。

(吉城委員)

予想が付かないということであれば、現状に基づき整理していくということなのか。もう一つ、NTTの敷

地にある AP パークが無くなるインパクトは大きい。過去にもコンサート等で大渋滞が発生したというのがある。AP パークは、市民会館や熊本城ホールの利用者も使っているだろう。AP パークが無くなることを踏まえた上で検討してもらいたい。

(事務局)

今後、交通解析をする上で、AP パークが無くなることを踏まえて検討する。また、新庁舎の駐車場は、夜間や休日等には基本的に来庁者はいないことから、逆にイベント時や休日の利用等がある。それぞれ活用できていくかと思う。

(吉城委員)

基本的な考え方として、周辺駐車場も活用しながら新庁舎の駐車場台数は絞っていくという方向性は、そうであるべきと考える。

(田中会長)

執務スペースは、将来の転用等を見据えて在り方を検討しているが、駐車場計画はそこまで見据えた計画ではない。仮に来庁者が減ってきた際にも、災害対応などに転用できるなど柔軟性を持った先を見据えた駐車場計画があっているのではないかと。

(事務局)

近隣も含めた全体の中で、リエゾンなど受援時の駐車場であったり、自衛隊、警察の車両をどこでどう受け入れるのか、災害の役割も含めたところでの新しい庁舎としての役割を整理していく。

(田中会長)

エリア防災の観点でも駐車場計画を考えていくということか。一方で、駐輪場は全部敷地内につくると断言されているが、それで良いのか。

(事務局)

来庁者用については、そこまで規模も大きくないということがあり、基本的には敷地内で整備すると考えている。

(田中会長)

検討の方向性なので、答えを決めるわけではないと考えている。駐輪場がウォークアブルな都市づくりに反しないか。

まちなかで、止めやすいところに自転車を停めて、歩くという自由な選択ができるまちを目指すのであれば、庁舎も同様な考え方というものもあるのではないかと。

(松里委員)

若い子たちは駐輪場がないとまちには来ない。駐輪場に停めて、できれば無料で、そうすると特に高校生はまちに行きやすくなる。今、駐輪場が少しずつ減ってきている。来庁者だけではなく、学割などを導入し、まちへの乗り入れを促進する意味でも、市庁舎に駐輪場があることはプラスに働く可能性がある。

(田中会長)

シェアサイクルなども含めて、どこに停めて、どういうアクティビティをするかという計画の下に検討されるべきかと思う。

(事務局)

そのように考えます。

(住吉委員)

政府としては、2035年にガソリン車の販売をやめる方針としており、急激に電気自動車が普及し、自動車が電化していくと考えられる。また、政府のエネルギー基本計画では、2040年に太陽光発電パネルが現状の

3倍くらい導入される計画となっているので、昼間に太陽光で発電した電気が余る状況が多発する。それを吸収する必要があり、その一つの手段として電気自動車が考えられるのでそうしたことへの対応も考えていかないといけない。

(事務局)

環境部局でもそういった計画がある。既存計画に沿った電気自動車の駐車場、電源ポートを何台整備するかということを環境部局と調整していく。

(星野委員)

ポートの場所だけでなく、電気の大きなネットワークとして考えないといけない。

(菅野委員)

ポートがないとどうにもならないので、まずはポートだけは検討したほうがよい。電気を車に貯めておいて、災害時に使うという考え方もできる。

(田中会長)

市民利用スペースについて意見を頂きたい。市民利用スペースの名前が、それで良いかというのはまた検討がいる。

(菅野委員)

これを読むと、市民はお客さんという扱いに感じる。まちづくりと一緒にやろうという感じが無い。市民利用スペースの検討だけではないと思うが、いわゆるインクルーシブデザインの考えとして、要配慮者の人たちなどと一緒に考えなければならない。これをどこに書くのか。

(田中会長)

コンセプトではないか。インクルーシブであったり、市民協働であったり、市民が主役であるといったことはコンセプトで掲げられてよいと思う。

(松里委員)

市役所の人たちは、本庁舎に市民が必要だと思っているのか。市民が使う場所なのか。職員が使う場所なのか、市民と一緒に使っていく場所なのかをコンセプトにうたっておかないといけない。

(事務局)

次回、コンセプトの在り方などを話す場もあるので、そこで考え方を示したい。

(田中会長)

市庁舎と市民との関わりが描かれておらず、プラスアルファで市民が使ってよいというものにとどまっていると感じる。

(星野委員)

一点、要望したいことがある。中央区役所周りはインフラが弱すぎる。回遊性向上なども敷地内だけではほほできないロケーションではないかと思っていて、ここは外部の方と議論をしていかないといけないが、敷地の外まで広げていかないといけない。周りの道がそのままでは賑わいにはつながらない。

9. 審議事項3) コンセプト検討の方向性

(事務局)

資料6にコンセプト検討の方向性を示している。コンセプトについては、素案の段階で決定する予定だが、基本構想や市民意見、既存の計画、まちづくりプランなどを分析の上、第二回分科会において、窓口や防災拠点施設の機能や回遊性向上などの要素ごとにコンセプト案を示させていただく予定である。

(田中会長)

資料1のスケジュールでは第6回にコンセプトができるというように見えるが、それはおかしい。動線や機能を考えるときにコンセプトに立ち戻れるというものがないといけない。仮決めでよいので、次回にコンセプトを決めたいと思うがいかがか。

(松里委員)

まずはどんなまちにしますか？という部分がないとコンセプトが掲げられない。個々の議論を尽くす前に、大きなコンセプトを掲げないと各論に移れないのではないか。

(星野委員)

コンセプトはいきなり設定できない。大きなまちづくりの視点も含め、分科会を重ねて解像度が徐々に上がり、最終的にフレーズとして最後にまとまるのが第6回ということだと思われる。

(事務局)

決定は素案だが、第二回に案を示したい。

(田中会長)

事務局側の説明では、機能ごとのコンセプトがあって、それから全体のコンセプトをまとめるという話し方に聞こえたが、やはり、検討分科会で部分を考えていくためにも、その中で根本の考え方に立ち戻れる、全体のコンセプトが最初に必要だと思われる。

(星野委員)

今日の話では、市民と市役所の関係性がコンセプトのベースになると感じた。

(田中会長)

さらに、時代の変化に対応できるという思想を盛り込みながら、それらが統合された言葉を探したい。

(星野委員)

最初はカッコ悪いキーワードでもいい。

(吉城委員)

プロポーザル提案の「つなぐ熊本」というコンセプトは忘れて、まっさらに考えてよいのか。

(事務局)

プロポーザル提案の考え方もベースにしつつ、今日の議論も踏まえて検討したものを提示したいと考えている。

閉会、事務局挨拶

議事録の記録は後日HPで公開する。